

博報財団 第12回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	SASTRE Gregoire Simon Jean (サストル グレゴワール シモン ジャン)
在住国名	フランス
所属・役職	Centre de recherche sur les civilisations de l'Asie orientale (CRCAO) 東洋文化研究所
招聘回(招聘研究期間)	第12回(2017年9月2日～2018年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	日本陸軍の情報機関の創立とその影響
研究目的	日本での史料収集
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>来日以前から研究課題と関係ある史料館の目録を探ることにした。着いてからこの作業をつきました。それと同時に以前の研究に関する論文を書きました。来日してからすぐ、専門家と面談して、いくつかの発表をした。研究発表と論文と共に資料を収集することができた。最初に防衛研究所の史料館で陸軍の参謀本部の創立と活動と情報将校の活動に関する史料を収集した。その中に、フランスの軍事顧問団に集中して、お雇い外国人顧問に関する史料。明治元年から日露戦争の期間に集中しました。早稲田大学にある大隈重信関係文書で日本外交と情報活動に関する史料を取集して。国会図書館の憲政閲覧室にある大山巖文書、川上操六文書、桂太郎文書、児玉源太郎文書、伊藤博文文書らを読覧して来た。外交史料館または国立公文書館にある大使館付武官に関する史料やそれらの報告を集めてきた。その作業は今でも続いている。</p> <p>この一年間、大日方教授が担当しているゼミに参加して、5月に研究に関する発表をした。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>収集して来た史料を生かすにはまだ時間が必要ですが、現在、研究計画通り、参謀本部の創立の研究に集中しています。特に海外からの影響。</p> <p>陸軍に関してはフランスの影響が幕末に始まり、明治維新後続けたが、先行研究ではフランスの影響より、日本の陸軍参謀本部がドイツの影響により編制された。ですが、幕末期からして、フランス軍事顧問が三つもあった、それに比べれば、明治初期、ドイツから来た雇い外国人は多くなかったが、1880一人のプロイセン陸軍将校のメッケル少佐が強い影響を持ったとされている。結局、参謀本部の創立に関してはプロイセンの影響の元にあるのは外交関係よりも日本陸軍将校の意見である、山縣有朋、桂太郎、大山巖らがプロイセン式の方が日本の参謀本部に適切と判断した。</p> <p>だが、フランスから三つの顧問団が来日して、陸軍のそれらの教育機関で教えて、運営して、または創立した件もある。なので、今から検討する問いの中には：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フランス軍事顧問団の影響を適切にはかる、特に将校に育成と参謀本部の創立に関して。 ● 何故フランス軍事顧問団の影響が認めてはいない・消えたか。 ● プロイセンの影響のあり方。 ● その研究の結果は8月にLilleの学会で発表する予定です。今年は日仏外交関係の160周年。 	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <p>・«1968 - Les étudiants japonais »「1968—日本の学生運動」. パリ政治学院の図書館、2018/5、(http://dossiers-bibliotheque.sciencespo.fr/voir-plus-loin-que-mai-les-mouvements-etudiants-dans-le-monde-en-1968/les-etudiants-japonais-en).</p> <p>学生運動はフランス68年五月危機の中心であったと認識されているが五月危機は労働運動でもあった。同じく日本で</p>	

はこの60年代と70年代の政治・社会運動の中で学生運動が目立っても、日本の68はそれだけ打はなかった。この論文で日本の学生運動の役割と一位を語ると同時に日本の60・70年代の政治運動を述べる。

・(予定) « Gen'yōsha : la nécessité d'une histoire » 「玄洋社:歴史の必要性」

自由民権運動と玄洋社の関係を見て両方を再考する必要があります。

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・「制度外の情報収集から制度内の収集へ:大陸浪人と陸軍の情報機関」、2018/1/26、京都大学。

荒尾精と内田良平を通じて、大陸浪人の情報活動を述べる。日清関係と日露戦争を通じて彼らの活動と役割を定義し、軍隊との親密な関係を述べる。

・ « Informal Figures of Japanese Imperialism : The political activism of the *Gen'yōsha* » 「日本帝国主義のインフォーマル像:玄洋社の政治活動」2018/5/1 ドイツ日本研究所、上智大学。

This talk will focus on the political association *Gen'yōsha* and its members during the 1868–1910 period. We will show how the association was an integral part of the Freedom and People's Rights Movement and its spearhead in the Kyūshū region. After presenting the historical process that led to the foundation of the *Gen'yōsha*, we will explain how it played an instrumental role in the uprising of the so-called *Tairiku Rōnin*, and how these political activists were important elements of the Japanese expansionist policies. It will be the occasion to shed light on the relation between the informal activist sphere and the political and military administration and how this relation played a role in Japan's internal political landscape and foreign policies.

・「日本陸海軍の情報機関の創立と発展 : 方法論」2018/5/20・早稲田大学近代史ゼミ。

現在の研究計画を方法論の観点から説明しました。

・ « L'influence des conseillers étrangers dans la mise en place de l'état-major de l'armée japonaise (1868–1894) »

「日本陸軍参謀本部創設における御雇外国人の影響・役割(1868–1894)」

、Lille 大学、学会: "La circulation des savoir entre l'Asie et l'Europe au temps de Léon de Rosny" ベルリンゲ河野紀子教授(元博報フェロー)2018年10月12日。

○その他の活動

・多数の研究者と面談: 酒井哲也教授(東大)、谷口真子教授(早大)、稲葉千春教授(名城大学)、関誠先生(帝塚山大学)。

4. 今後の活動予定

・ « Guerre russo-japonaise : guerre secrète (1895–1906) », 「日露戦争:情報の戦争(1895–1906)」、フランス日本研究会の学会での発表(12月予定)。

・九月から Toulouse 大学で教えると同時に博報フェローとして行った研究を続けることができます。

・フランス東洋文化研究所とパリ第七大学で学会を企画しています。タイトルは « Les mondes urbains du Japon colonial : Réflexions sur des sociétés multiples » 「日本植民界の都市:多様な社会を考える」(2019年予定)。